

○ 文化財防災の未来を考えるシンポジウム「みらいにつなぐ文化財」  
(2025年10月1日、東京国立博物館)



近年激甚化する自然災害や火災などで、貴重な文化財の被害が相次ぐ中、次世代に引き継いでいくために官民が連携して何をすべきか、文化財防災に携わる専門家らが討論した。設立5周年を迎える国立文化財機構文化財防災センターと朝日新聞社の主催。

シンポでは、高妻洋成・文化財防災センター長が「阪神・淡路から能登 文化財防災の30年」と題して基調講演。山下信一郎・文化庁文化財鑑査官、山梨絵美子・日本博物館協会会長、宗田好史・京都府立大学名誉教授の3人による報告のあと、犬塚将英・文化財防災センター副センター長の司会で登壇者によるパネルディスカッション「地域社会の復興と文化財」を開いた。(出所：下記、関連記事(1)、(2)より。承諾番号「25-2929」)

・朝日新聞関連記事:

2025年9月18日 [文化財を未来へ、防災専門家らがシンポ 10月東京で \(1\)](#)

2025年9月23日 [法隆寺から探る、歴史遺産の継承 万博で「防災の未来」シンポ \(2\)](#)

以上